

第 19 回基本政策部会 議事要旨

1 日 時

令和 3 年 5 月 26 日（水）10:30～12:00

2 場 所

中央合同庁舎 4 号館 11 階 共用第 1 特別会議室

3 出席者

(1) 委 員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、工藤委員、栗原委員、
柵山委員、篠原委員、白坂委員、角南委員、常田委員、林委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官、川口参事官

(3) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

4 議事要旨（○：意見等）

事務局から資料 1～2 に基づいて説明。以下の意見があった。

<宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項について>

- 小型衛星コンステレーションの構築については、国際的な競争状況を踏まえてスピード感を持って取り組んで行く必要がある点について、明確化していく必要がある。また、構築だけでなく、運用も含めて行っていくことが重要。
- 今後、宇宙システムの社会実装を進めていく上では、海外のシステムとどのように連携するのか、という国際連携の観点が重要である。また、民間の予見可能性を高める観点から、実装のターゲットとなる時期や、国がやるのか民間がやるのかといった官民の役割分担を明確化していくことが重要。
- イノベーションを支える大学の役割が高まる中で、今後の大学改革の動向も踏まえて、宇宙分野において、人材育成も含めて大学をどのように活用していくのか、しっかり検討していくことが重要。
- 産業育成の観点から、宇宙分野の民間投資を促していく方向性を明確にすることが重要。

<月面活動に関する基本的考え方について>

- アルテミス合意を含め、宇宙活動の国際的なルール形成に向けた動きが活発化している中、今後、我が国の活動が干渉されることがないように、国際的なルール形成に向けた議論の動向について情報収集をしっかりと行っていく必要がある。
- 今後の月面活動において、多種多様な企業の参画が期待される中、今回、産業界の力を活用していく方針がしっかり示されたことは、大変有意義である。
- 月面を含む通信、測位インフラを巡っては、今後国際的な競争が激化することが予想される。技術開発を行うだけでなく、国際的な連携を含めて、日本がリーダーシップを発揮していくことが重要である。